



やまぐちブランドの推進について（平成18年6月定例会）

「明治維新」や「みかん」「ふく」など、個別の「モノの価値を高めるブランド」とは異なる視点から、今こそ、山口県という地域全体の価値を高めるような、「やまぐちブランド」の構築が急がれるのではないのでしょうか。

例えば、周南市には、コンビナート群が立地し、全国屈指の生産性を誇っておりますが、一方で、これらの企業では、公害防止や環境保全、リサイクル事業等の取組も積極的に進めておられます。また、市内には、本州唯一のナベヅルの越冬地もあり、自然との共生活動の取組も進んでいます。

「環境」がキーワードとされ、持続可能な社会の形成が語られる今日、これら地域の取組や、それを支える活動の紹介などが、観光交流の新たな機軸のひとつになると考えます。

本県の地域イメージの構築を含め「やまぐちブランドの推進」について、今後の取り組みをお伺いします。

【二井知事】

地域間競争が激化している中で、この地域ブランドへの取組は、重要な課題と認識しており、今年度から地域ブランド推進のための組織を整備するなど、新たな取組についての検討に着手したところです。

地域の多様な資源を生かした農水産物や工芸品などの個別ブランドの育成に努めていくと同時に、県のブランドとしてそれぞれの個別ブランドをトータルした情報発信や新たな地域イメージの構築など、山口県らしい「地域ブランドの推進」について検討を進め、「人とモノの交流」の促進により、地域の活性化につながる取組となるように努めていきます。